第 13 号（令和元年 12 月１日）

登別市史編さんだより

登別市総務部市史編さんグループ
担当　千葉・菅野・更科・玉田・佐藤
〒059-8701
登別市中央町６丁目１１番地
Tel 0143-50-6039
Fax 0143-85-1108

まちのはなし　来福橋（桜木町・新川町）

胆振幌別川付近（昭和 30 年代前半）

左の地図は、昭和３４（１９５９）年に発行した「幌別町全図」の一部分ですが、この地図にある橋梁５か所は、全て「木橋※」として描かれています。

そのうちの一つとして胆振幌別川に架けられ、桜木町と新川町を結ぶ「来福橋」。

命名の由来や時期は不明ですが、明治中期にはすでに架けられており、その後、道路が国道から市町村道、そして現在の道道となっても幌別方面と富岸方面とを結ぶ大切な橋として現在に至っています。

この来福橋ですが、昭和３２（１９５７）年頃には車馬の通行が禁止されるほど老朽化が進み、コンクリート製の橋への架け替えが検討される中で、昭和３４年８月の豪雨によって流失してしまいます。

地域住民の生活路線として大切な橋であったこともあり、来福橋は、災害復旧工事によって念願のコンクリート製の橋に生まれ変わりました。

しかし、このときの橋は、幅員が５．５㍍と狭く、橋上で自動車がすれ違うことができず、付近の渋滞を引き起こす原因の一つとなります。そのため、昭和５２（１９７７）年に交通渋滞の緩和などを目的に拡幅工事が行われ、車道１１㍍と両側にそれぞれ３．５㍍の歩道が付く現在の来福橋となりました。

右の写真は、来福橋の橋脚を新川町側から撮影したもので、矢印より左側の部分に古い橋脚の名残を見ることができます。

左側が昭和３５（１９６０）年に架けられた際の橋脚、その他の部分が昭和５２年に拡幅した際に設けられた部分になります。

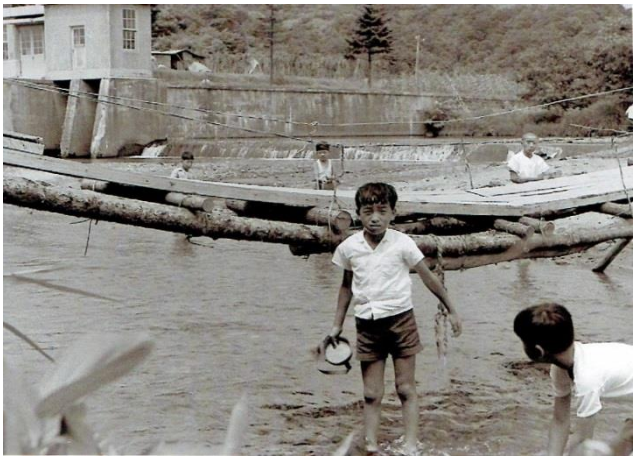
まちを歩いていると、この橋のように過去から現在に至るまでの変遷をたどることができる場所が市内に多くあります。

来福橋の橋脚（令和元年１０月撮影）

※道路に架けられる橋の地図記号について、現在は「道路橋」として前後の道路の幅員と橋の延長に応じて区分されますが、「幌別町全図（昭和３４年発行）」の凡例では「木橋」「鉄橋」及び「コンクリート又は石橋」の３つに区分されています。

昔の街の様子　柏木町

●来馬川（新登喜和橋付近）



昭和３７年頃撮影

現在（右岸から撮影）

幌別浄水場（昭和３７（１９６２）年建設）横の吊り橋付近で遊ぶ子供たちです。
現在の写真と見比べると川の流れる方向が違うことに気付かれると思います。
来馬川は、かつては大きく蛇行する河川でしたが、昭和３０年代から４０年代にかけて拡幅と直線化の工事が行われ、写真の部分もほぼ９０度、流れの向きが変わりました。
この来馬川。多くの生き物が住む河川であり、昭和５６年には市内の小学生が５６センチメートルのうなぎを捕まえたとの新聞報道がなされるなど、多様な生物が暮らす環境の河川であり、また、子どもたちにとっても格好の遊び場でありました。
この吊り橋がある場所は、現在、「新登喜和橋」（平成４年１１月竣工）が架けられ、道道上登別室蘭線の一部となっています。

●柏木団地付近

昭和４０年代撮影

現　在

昭和３０年代までの柏木町は農地が広がり、かつては登別が誇る農産物の一つ「幌別大根」の生産地でもありました。
古い空中写真からは、昭和４０年代に富士町側から宅地化が進行し、現在の柏木町が形作られていく様子を見ることができます。

◎資料に関する情報提供のお願い

市史編さんグループでは、昔の登別を知る手掛かりとなる資料についての情報を集めています。
お祭りやまちの様子を写した写真や映像、当時の日記など、お心あたりのある方はご連絡ください。

（連絡先）登別市総務部市史編さんグループ　千葉・菅野・更科・玉田・佐藤
電話：0143-50-6039　FAX：0143-85-1108